

第369回三木市議会定例会 市長 閉会あいさつ

令和4年3月29日

第369回三木市議会定例会の閉会に当たりまして、ごあいさつを申し上げます。

議員の皆さまには、去る2月25日の開会以来、本日まで33日間にわたり、終始ご精励を賜り、令和4年度の当初予算をはじめ、多数の重要案件について、本会議並びに各常任委員会において、それぞれ慎重なるご審議をいただきましたことに、深く感謝を申し上げます。

しかしながら、第9号議案「三木市立認定こども園等の設置及び管理等に関する条例の一部改正」については修正動議がなされ、令和6年3月31日としていた緑が丘東幼稚園の閉園時期を、令和9年3月31日まで3年間延長するという修正案が可決されることとなりました。

幼保一体化計画の見直しについては、増加する就学前教育・保育のニーズに応えるべく、昨年来、1号認定児、2号認定児、そして3号認定児の受け入れ体制を、将来の人口予測を基に細かく分析し、

一から計画の見直しを行った結果、1・2号認定児については、市内の受け入れ施設の定員数は現状でも満たしており、特に第2園区については、緑が丘東幼稚園がなくなったとしても、令和6年度には定員数に50人程度の余裕が出てくることを予測しています。

よって、仮に青山7丁目の開発により就園児童が増えたとしても、緑が丘東幼稚園に代わって周辺4つの認定こども園で十分受け入れが可能であるとの試算もお示しし、これを、有識者や市民の代表者によって構成されるみきっ子未来応援協議会に諮ってご了承をいただき、また、市議会にも12月にはご説明をいたし、このたびの条例改正案の上程に至るまで、順を追って進めてまいりました。

三木市では、平成27年3月の幼保一体化計画の策定以降、増え続ける保育のニーズに柔軟に対応しつつも、国・県が進める幼児教育・保育の方針に沿って、市独自に大学教授や公立・民間の主任保育教諭が合同で作成した共通カリキュラムや、条例による評価・監査により、質の高い教育・保育を提供する民間認定こども園への移行をベースとした取組を進めてまいりました。

施設整備や運営面において、民間運営に対する国の補助制度を最大限に活用し民間園への移行を進める中で、公立主体では実現できなかった数々の子育て支援を施策に反映し、子育てしやすい環境整備をおこなってまいりました。

0歳から2歳児までの保育料半額や、3歳児以上の給食のおかず代を全額補助する制度などは全て市単独事業であり、民間認定こども園への移行と両輪でこそ実現できた施策であります。在家庭支援としてのみきっこランドや公園の遊具整備に加え、一時預かり保育、子育てキャラバンなどの施策も同様であります。

このような状況の中で、幼保一体化計画の見直し内容とは異なる修正案が可決される事態となったことは、誠に遺憾であります。

これに関しましては、再度、原案をもってしっかりと説明を尽くし、市議会のご理解を得てまいりたいと考える次第ですので、よろしくお願いいたします。

さて、先週は、本市で第2回目となる全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会、通称「春高・春中ゴルフ」を、本年は観客を入れて開催することができました。全国の予選を勝ち抜いた中高生421人の選手が、市内3か所のゴルフ場において熱戦を繰り広げました。選手、関係者含め延べ約3,300人の皆さまと共に私もその雄姿を拝見し、力強く清々しいプレーに感銘を受けてきました。スナッグゴルフの全国大会と共に、「ジュニアゴルファーの聖地」として、「ゴルフのまち三木」をこれからも大いに盛り上げていきたいと考えております。併せまして、生涯スポーツとして、また健康増

進を目的として、市民の皆さまがゴルフに親しみ、ゴルフを通じてまちの発展に資するような新たな展開にもチャレンジしてまいりたいと考える次第です。

また昨日は、三木駅舎の供用開始記念式典を開催しました。衝撃の火災から4年の歳月を経て、市内外からの本当に多くのご寄附によって支えられ、デザイン総選挙ではとりわけ若い世代に圧倒的な支持を得た「モダン風」の新駅舎が完成しました。明日の三木市、明るい未来を、そして、市民の皆さまお一人おひとりの「夢」や「希望」を背負って「祝、三木駅 駅舎完成」のヘッドマークを付けた臨時電車が、新駅舎から出発しました。感無量であります。

ゴールデンウィーク明けには観光協会も新駅舎に移転し、5月21日には、駅前ロータリーを含む新生三木駅の全体が完成します。

これらに先んじて、4月に入って間もなく、別所ゆめ街道にはサイクリングロードが、また、別所地域から三木市街地を南北に繋ぐ交通動脈として、県道三木宍粟線「高木末広バイパス」が全線開通します。本市の中心市街地の、今後ますますの発展を願ってやみません。

吉川地域においては、山田錦の郷活性化構想として、将来的には

道の駅水準をめざし、山田錦の館を中心とした更なる賑わいづくりの拠点整備を進めています。また、この1月から、吉川支所を健康福祉センターに移設し、支所跡地については、児童生徒の学習スペースを備えた地域の皆さまの新たな交流の場として整備が完了し、4月2日から供用を開始します。

青山7丁目の開発については、全国で抱える高齢化したオールドタウン再生のため、これまでの既成観念にとらわれない価値観、ニーズを先取りしたモデルタウンとして、世代が永続的に循環する新たなまちづくりの拠点として整備に着手します。

このように、皆さまが住まうこの三木市が、明るい未来へ向かって動き始めていることを実感していただきながら、これまで同様、地域づくりの主役である市民の皆さまとともにまちの発展を考え、ご理解を得て市政運営を続けてまいることが固くお誓い申し上げます。

3月21日をもって、「まん延防止等重点措置期間」も全国的に解除となりました。

しかしながら、未だ新型コロナウイルス感染症の脅威は続いている

ます。市民の皆さまにはくれぐれも気を緩めることなく、基本的な感染防止の徹底をお願いいたします。

最後になりましたが、議員の皆さまにはくれぐれも健康にご留意いただき、今後とも変わらぬ市政へのご指導、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。閉会のあいさつといたします。

ありがとうございました。